

## 助成事業実施報告書

団体名 NPO 法人さんさんくらぶ

代表者・役職名 氏名 理事長 蘭田碩哉



## 1. 助成プロジェクト名

多摩の自然と暮らしを知る里山伝統アート体験

## 2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

自主幼稚園「さんさん幼稚園」の卒園生の父母を中核に、教育と文化と福祉のまちづくりへの参画をめざして結成され、2003年にNPO法人の認証を得た。40人の会員を擁し、里山の景観維持のための水田耕作や市民の手作りによる創作オペレッタ活動などに力を入れている。

## 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

「さんさんくらぶ」は「自然とともに生きる」幼児教育活動から出発し、多摩ニュータウンの周辺に残された里山での多彩な自然体験活動とそれに関連付けた音楽、造形などの文化活動を追求してきた。その経験を活かし、里山の田んぼ耕作を続けながら、それと並行して子どもからシニアまでが楽しく参加できる伝統行事や自然型のアート活動を企画し、農業や地域についての理解を深め、参加者の絆を深めることを目的とした。

## 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

町田市小野路の谷戸の田んぼを耕作し、代掻きとくろぬり(4, 5月)、田植え(6月)、田の草取り(8月)、稲刈り(10月)、脱穀・粃摺り(11月)の作業を続けて、玄米60キロの収穫を得た。それと並行して次のようなアート体験、伝統行事体験を追求した

1. 夏の田んぼ観察と案山子づくり(8月)
2. 縄文のビーナスづくりワークショップ(11月)
3. 餅つき祭りと造形コンテスト(1月)
4. 冬の里山どんど焼き(2月)
5. ダンボールのお城づくりと野草てんぷらの会(3月)

## 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

4月から11月までの田んぼ活動は6回、延べ120人の参加者があり、8月から翌年3月までの伝統アート行事は5回、合計185名の参加者を集めることができた。多摩周辺の多くの人々に里山の自然の豊かさを感じ取ってもらい、かつては広く行われていた棚田の稲作の実際を体験してもらった。それによってわれわれの先祖たちがどんな暮らしをしていたかを理解し、協同して働くことの価値や都市近郊の自然を保全することの意義を理解する人々を増やすことができた。また、カカシ作り、陶芸、お城づくりなどの創作ワークショップにおいては、大人も子供も一緒に取り組み、作る喜びや協力の楽しさを味わうことができた。これらの活動の愛好者は着実に広がっており、都市住民の地域への関心を高めることに貢献できたと思われる。

## 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

今回のねらいの1つに「自然活動と文化活動の融合」ということがあったが、新しい活動をいくつも取り入れることによってその具体的なプログラムを拡げることができた。今後は、田んぼというフィールドが生み出す生活文化や芸術創造(ワラを使ったものづくり、発酵食品づくり、稲作を巡る芸能など)にも手を広げていきたい。造形活動において、伝統的なモノづくりの手法を学び、それを後代に伝えていくことも課題である。また、自然との触れ合いが子どもたち・大人たちの心身を解放する効果があることを生かして、学習困難児や身体や心に障害を持つ人たちの体験の場としてもこれを生かして行く可能性を追求してみたい。

## 7. 参考資料

・イベント募集チラシ  
・活動報告書

参考資料あり



# かかしアート・フェスティバル 合歡の里で野外展覧会



アート指導

田宮 義寛 氏  
(造形作家)

夏の合歡の里を訪ねて  
田んぼ活動。  
それからみんなで  
「案山子」(かかし)をつくります。  
かかしと言っても、  
へのへのもへじ + 一本足のかかし  
ばかりではありません。  
自然の材料を使って、もっと自由に  
楽しい造形作品を作って  
合歡の田んぼを  
にぎやかにします。

【日時】 8月26日(日)

午前9時~午後4時

【集合】 午前9時・一本杉公園管理棟前

【解散】 午後4時・同場所

【開催場所】 町田市小野路《合歡の郷》

【参加費】・大人：1,000円

・子ども：無料

【プログラム】

- ・田んぼの見学 草取り イナゴ取り
- ・田んぼアートづくり
- ・火おこしと野外料理(野菜ラーメン他)

※雨天の場合は「さんさんくらぶ」で  
行います。

※申し込み者には持ち物など、詳しい  
参加案内を送ります。

《主催》

NPOさんさんくらぶ

<ホームページ>

<http://www.sansanclub.jp>

《問合せ》

E-mail [music@sansanclub.jp](mailto:music@sansanclub.jp)

Tel 090-4703-8878 (蘭田)



# ねむの里のビーナスを作るう

アートの秋に、粘土を捏ねてあなたの理想の「ビーナス」を作ってみませんか。モデルはいま注目を集めている縄文期の土偶たち、「縄文のビーナス」や「縄文の女神」です。一人一人の夢をふくらませて、どこにもない「わたしの形」を生み出しましょう。



縄文の女神

山形県舟形町  
西ノ前遺跡出土  
(縄文中期)

《日 時》 11月11日(日)  
午前10時~出来上がるまで

《場 所》 さんさんくらぶ(旧園舎)

《指 導》 田宮 義寛 氏  
テラコッタ作家であり、陶芸教室も開いています。  
多摩ニュータウンでの発掘作業に参加した経験も  
あります。

《参加費》 ・大人 2,000 円  
・高校生まで 1,000 円  
・親子ペアで 2,500 円  
※NPOさんさんくらぶ会員は半額

《定 員》 大人子ども合計 20 名まで

\*創り上げた作品は乾燥させた上で焼成します。  
後日、作品の展示会を町田市小野路の合歓の里  
で行い、その後に作者にお返しします。

\*事前に多摩センターの「埋蔵文化財センター」  
に見学に行く予定です。(日程は未定)



縄文のビーナス

茅野市棚畑遺跡  
出土  
(縄文中期)

《主催》 NPOさんさんくらぶ 町田市小野路町 5336-7

《問い合わせ・お申込み》

Tel : 090-4703-8878 (おひげ)

E-mail : music@sansanclub.jp

真如苑助成事業

2018年度真如苑市民活動助成事業報告書

## 「里山アートへの挑戦」



NPOさんさんくらぶ

町田市小野路町 5336-7

<ホームページ> <http://www.sansanclub.jp>

<E-mail> [music@sansanclub.jp](mailto:music@sansanclub.jp)

<Tel> 090-4703-8878 (蘭田)



# 多摩の自然と暮らしを知る里山伝統アート体験

## 【趣旨】

今は見られなくなった伝統的な文化や行事を誰でも参加できる交流イベントとして継続して開催する。多摩ニュータウン南側の里山の棚田で稲作を進めながら、草花遊びやカカシ作り、土器の野焼き、野外展示に参加してもらう。子どもや障がい者からシニアまでが多摩地域の自然にふれ合いながら交流し、環境を重視した生き方の価値を理解する。

## 第1回 合歓の里で野外展覧会 2018年8月26日

### (ねらい)

夏の合歓の里を訪ねて田んぼ活動。それからみんなで「案山子」(かかし)をつくります。かかしと言っても、へのへのもへじ + 一本足のかかしばかりではありません。自然の材料を使って、もっと自由に楽しい造形作品を作って合歓の田んぼをにぎやかにします。

### (当日の記録)

日射しが強いので、合歓の里倉庫前の日蔭にビニールシートを敷いて講師(田宮義寛氏)を紹介、田んぼのオーナー天野氏から田んぼの様子を話してもらう。真竹を主軸に笹竹を横に渡し、古着を着せ、顔を黒ペンキで描く…という手順で、次々とかかしアートが出来ていく。他方で火起こし、大なべで野菜入りチキンラーメンを作ってみんなに振舞う。子どもも大人も良く食べてくれて完売。午後は、さんさん田の周りに、出来た案山子8体を立てて案山子巡りをする。なかなかいい眺めだ。講評して写真を撮り2時過ぎに解散。



子どもたちは自由な発想で思い思いのかかしを作ります。見本もなければ、ごく簡単な作り方の説明だけです。

それぞれ持ってきた古着や飾りを使って個性豊かな10体くらいのかかしが無事に完成しました。猛暑の中のイベントだったので活動時間を短く設定しましたが、もう少し装飾に時間をかけられれば、より面白いかかしができたかも知れません。



## 第2回 ねむの里のビーナスを作ろう 2018年11月11日

(ねらい)

アートの秋に、粘土を捏ねてあなたの理想の「ビーナス」を作ってみませんか。モデルはいま注目を集めている縄文期の土偶たち、「縄文のビーナス」や「縄文の女神」です。一人一人の夢をふくらませて、どこにもない「わたしの形」を生み出しましょう。

(当日の記録)

さんさんくらぶのホールで実施。最初に田宮講師から縄文土偶の解説、多摩で出土した本物の土偶を手にとってみる事ができた。制作は新聞紙の芯づくりから始め、薄く伸ばした粘土板を貼りつけ、それぞれのイメージで形を作っていく。子どもたちも積極的に粘土を大人と同じ一人分ずつ取ってそれぞれの作品に挑戦する。テーマどおりの豊満なビーナスもあればお地蔵さんもあり、縄文土偶の代表作とも言える遮光器土器の模作は、子どもの力作。昼休みは2階のベランダで陽を浴びながら賑やかに弁当。その後、作業を続けて3時前には完成、作品を並べて鑑賞し、今後の手順を確認して解散する。(作品は乾燥の上、田宮工房で焼成し、無事に完成した)。



土をこねて、薄い板に伸ばし、芯になる紙に貼り付けて形を作っていく、本格的な焼き物教室でした。人物的な形を作るための手順がありますが、それ以外は自由です。

飾りや模様を付ける道具もたくさん用意されていて各人が工夫できました。

大人でも難しい作業でしたが、子どもたちも楽しんでそれぞれの作品を作りました。

12体の土偶や埴輪、お地蔵さんなどが並ぶと壮観です。子どもの自由な発想にいつも驚かされます。

## 第3回 合歓の里にお城をつくろう 2019年3月31日

(ねらい)

早春の合歓の広場にみんなでお城を建てます。材料は段ボール。彩色してカラフルなお城にします。子どもも大人も協力して私たちみんなのお城を造ります。

(当日の記録)

10時過ぎに合歓の里に集合。11時に城づくりがスタート。田宮講師の指導で段ボールを繋げて迷路のようなトンネルづくり。子どもたちは大喜びで遊びながら作っていく。ダンボールを何層にも積み上げた天守閣には「しゃちほこ」も付ける。他方、大人組は野草天ぶらの素材を収集。田んぼとその周辺



からナズナ、カンゾウ、フキ、ギシギシ、タンポポ、シダ系などの食材を集める。天野オーナー提供のタラの芽、セリ、ヤブレガサ、菜の花など。12時過ぎに城づくりは一段落して昼食となり、天ぷらを次々と揚げて全員で美味しく食べる。お城で十分に遊んで2時過ぎ片付け、集合写真を撮って三々五々帰途に就く。



何の変哲もない段ボールがお城になり、遊具になります。遊具を自分たちで作る体験は今の子どもたちには新鮮です。お城の説明や写真を見ながらみんなでワイワイ、ガヤガヤと共同作業を進めると、いつのまにか天守閣もある立派なお城と、お城をつなぐ迷路が完成しました。

## 【総括と今後の展望】

今回のねらいは「自然活動と文化活動の融合」ということにあったが、新しい活動をいくつも取り入れることによってその具体的なプログラムを拡げることができた。今後は、田んぼというフィールドが生み出す生活文化や芸術創造（ワラを使ったものづくり、発酵食品づくり、稲作を巡る芸能など）にも手を広げていきたい。造形活動において、伝統的なモノづくりの手法を学び、それを後代に伝えていくことも課題である。また、自然との触れ合いが子どもたち・大人たちの心身を解放する効果があることを生かして、学習困難児や身体や心に障害を持つ人たちの体験の場としてもこれを生かして行く可能性を追求してみたい。